庁議記録

日　時　令和 7 年 6 月 12 日（木）
11:40～12:00
場　所　テレビ会議室

【加納副知事】

それでは、ただいまから庁議を開催いたします。本日の議題は、報告事項が 4 件であります。

はじめに、報告事項の 1 件目として「道の地震津波対策」につきまして、総務部から説明をお願いいたします。

【危機管理監】

資料 1 の 1 枚目をご覧ください。地震津波対策の全体像をまとめたものになっております。

左側の太平洋につきましては、断層モデルから減災計画の策定まで、全て終えております。中央の日本海につきましては、先週 6 月 3 日に被害想定を公表したところでございまして、今後、減災計画の策定に取り組んでまいります。右側のオホーツク海につきましては、今後、被害想定と減災計画の策定を進める予定としております。

資料 1 の 2 枚目をご覧ください。被害想定の概要を、太平洋と日本海で比較したものになっております。

最大死者数は、太平洋が 14 万 9,000 人、日本海が 7,500 人。今後 30 年以内の発生確率は、太平洋に比べ日本海は低く、地震の種類は、太平洋が海溝型地震で 2 つの震源域、日本海は断層型地震で 15 の断層モデルに基づき計算しております。最大地震規模は、太平洋の方が大きいものの、最大津波高は同程度となっております。

続いて、資料 1 の 3 枚目をご覧ください。

当面の取組について、太平洋につきましては、減災計画に基づき、想定される死者数を令和 13 年度までの 10 年間で 8 割減少させるという目標に向けまして、180 の対策を推進しております。

また、緊急事業計画に基づく取組といたしまして、対象 39 市町のうち、16 市町が計画を策定し、事業を進めております。

日本海側につきましては、減災計画の策定にあたり、本日の会議は、「防災・減災対策推進本部」会議を兼ねておりまして、今後、各部等の対策を取りまとめ、道防災会議の有識者で構成されます減災ワーキンググループでの検討を経て、今年度内の策定を目指してまいりたいと考えております。

オホーツク海側につきましては、被害想定の検討を行うこととし、今後、道防災会議の減災ワーキンググループにおきまして検討を進めていく予定としております。以上でございます。

【加納副知事】

次に、報告事項の 2 件目といたしまして、「アイヌ文化の魅力発信」について、環境生活部から説明をお願いいたします。

【アイヌ政策監】

資料 2 をご覧ください。

アイヌ施策推進法施行から 6 年が経過し、アイヌ文化の復興・創造等の拠点となる民族共生象徴空間ウポポイは、間もなく開業から 5 年目を迎えます。

多くの皆様に、アイヌ文化の多彩な魅力に触れ、北海道に来ていただき、より理解を深めていただくため、この間、道といたしましては、国や関係団体等と連携し、アイヌ文化の振興と魅力発信に努めてきたところでございます。

ウポポイでは、開業 5 周年を記念して、7 月 12、13 日には、アイヌ古式舞踊の披露や、伝統料理の試食等のイベントを行うほか、アイヌ民族博物館では、日本が初めて参加したウィーン万博に出展したアイヌコレクションが、150 年ぶりに北海道に戻り、特別展示されます。

そして、7 月 25 日に、いよいよリニューアルオープンする赤れんが庁舎内では、アイヌ文化や歴史の展示のほか道内各地のアイヌ関連施設のご紹介も行いますので、是非、多くの皆様にご来場いただきたいと考えております。

また、先月 17 日には、大阪・関西万博においてアイヌ舞踊を披露し、約 4,000 名もの国内外からのお客様に見ていただいたほか、本日まで、アイヌ工芸品の展示が行われております。

この工芸品については、「2 文化の継承」になりますが、アイヌの方々が育み伝えてきた伝統的技術により作成された工芸品は、各地域で受け継がれてきたアイヌ文様や精巧な技術がとても魅力的であり、多くの方に見ていただくことで、アイヌ文化を知っていただきたいと考えております。

この技術を持つ方の高齢化が進む中、文化を継承していくためには、次世代の担い手育成が急務でありまして、この担い手が経済的に自立するためには、認知度の向上とともに、工芸品の販路の拡大が必要でございます。

そのため、高校生や大学生を対象に、アイヌ工芸品の技術研修を実施し、育成を図るとともに、ポップアップストアの開設や、各種イベントでの工芸品の展示・販売等を通じて、多くの皆様にその魅力を伝え、アイヌ工芸品の販路拡大につなげていきたいと考えております。

ウポポイ 5 周年を始め、様々な動きのある今を、節目の時と捉え、様々な機会を効果的に活用し、アイヌ文化の魅力発信に取り組んでまいりたいと考えております。貸出し品の工芸品や民族衣装などもございますので、各部・振興局で実施するイベントの際にも、是非ご協力をお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。以上です。

【加納副知事】

次に、報告事項の 3 件目として「日高山脈襟裳十勝国立公園に係る取組」につきまして、環境

生活部、日高振興局、十勝総合振興局からそれぞれ説明をお願いいたします。

【環境生活部長】

資料３の１枚目をご覧ください。

日高山脈襟裳十勝国立公園は、全国で 35 番目、道内では７番目の国立公園として昨年６月に指定され、間もなく１周年を迎えるところであります。

現在は、環境省を中心に国の機関や道、市町村、関係団体などで構成されます、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会におきまして、本公園の基本理念や目指すべき将来像などを示す公園ビジョンの策定に向けまして、パブリックコメントを実施しており、８月にこのビジョンを決定する予定であります。

道では、本庁、そして日高・十勝の両振興局が国立公園化を起爆剤としまして地域の魅力向上と活性化につなげるため、機運醸成、プロモーション、受入環境の整備と保護の 3 つの柱で重点的に取組を実施することとし、これらの取組を効果的に推進するために、本庁各部と振興局の連携を目的としました連携推進会議を設置しておりまして、この会議のもとで庁内はもとより、関係市町村や関係団体の取組の情報共有を行ってきているところでございます。

今後の予定といたしましては、７月に埼玉県のイオン北海道フェアでの PR や、９月には愛知県でのツーリズム EXPO ジャパンでのプロモーションを行うこととしておりまして、引き続き本庁関係部局や両振興局と連携しながら各種の取組を進めてまいります。以上でございます。

【日高振興局長】

資料３の２枚目になります。

日高振興局では、今年度、日高自動車道の新冠 IC までの延伸も予定されていることから、昨年に引き続きまして、日高の魅力発信と誘客の促進に取り組んでいく考えでございます。

十勝総合振興局との連携事業といたしまして、指定日である６月 25 日に、道庁１階で環境省自然保護官によるトークセッションを、７月 12 日には一周年を記念するシンポジウムを浦河町で開催することとしております。

また、国立公園に関するパンフレット２種類を十勝と協働で作成いたします。

日高振興局独自の取組といたしましては、自然保護の将来を担う小学生を対象に、コレクションカード等を活用して環境教育の促進を図る「なないろパークレンジャー」を 7 月を目処に開始いたします。

また、受入環境の整備といたしましては、アポイ岳登山口にあるキャンプ場と日勝峠にある園地と散策路の改修を行う予定でございます。

連携推進会議を中心に今後もよろしくお願いいたします。

【十勝総合振興局長】

資料３の３枚目になります。

十勝は、日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力を大雪山国立公園、阿寒摩周国立公園とも組み合わせながら、関係機関・団体等と連携して発信していく考えであります。

今後、機運醸成に向けて管内 3 国立公園の理解を深めるセミナーを開催するほか、プロモーションとして、指定 1 周年を記念した写真展や 3 つの国立公園を紹介する巡回パネル展などを行います。

また、今年度、既に実施した取組として、中札内高等養護学校が制作した日高山脈の作品展示、「日高山脈めぐるとかちカード」の配布、道道の国立公園区域の入口付近への看板設置を行いました。

関係部局の皆様には、引き続き、ご協力をお願い申し上げます。以上です。

【加納副知事】

次に、報告事項の 4 件目として「どうみんおでかけプレゼントキャンペーン」につきまして、経済部から説明をお願いいたします。

【観光振興監】

資料４をご覧ください。

このキャンペーンは、物価高騰の影響により、道民の皆様の旅行控えが懸念される中、道民の皆様に向けた割引等のサービスを提供する道内の宿泊、アウトドア体験、観光施設などの観光関連事業者の取組を支援するため、本年の３月 25 日から７月 21 日までの約４か月間にわたり実施しているものでございます。

内容といたしましては、この事業に参加する道内観光関連事業者に、道民限定の宿泊料の割引やドリンクサービスなどのプランを用意していただき、この対象プランを対象施設や専用サイトなどから予約された方が、実際にそのプランを利用していただくと抽選により、道産品ギフトカタログやデジタルギフトをプレゼントするというものでございます。

この度、より多くの道民の皆様にこのキャンペーンに参加していただくため、折込チラシによる広告を実施したほか、対象となる予約方法をこれまでの方法に加えまして、主要旅行サイトからの対象プランの予約も対象といたしましたことから、5 月 23 日時点で約 3,000 人の利用者であったところ、6 月 11 日時点では約 5,500 人のご利用があったというところでございまして、対象施設数もこれまでの約 230 施設から、約 360 施設に拡大しているところでございます。

なお、対象施設につきましては、道民の皆様により多くの選択肢を提供していこうということで、引き続き、拡大に向けた施設への働きかけなどを継続して取り組んでいるところでございます。

観光局といたしましては、このキャンペーンを通じ、道民の皆様の旅行需要の一層の喚起を図ってまいりたいと考えておりますので、既に経済団体等への周知を行ってまいりましたが、各振興局

におかれましては、改めて周知にご協力をお願いいたします。以上でございます。

【加納副知事】

議題は以上でありますが、何かご発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、最後に知事からお願いいたします。

【知事】

まずはじめに、「道の地震津波対策」についてであります。

この度、公表した日本海沿岸の被害想定は、最大クラスの地震津波が発生した場合の具体的な被害を明らかにしたものであります。全ての関係者がしっかりと受け止めて、対応を検討する必要があります。

今後、ハード・ソフト両面からの取組を推進していくことで、被害の軽減を目指し、国、市町村、関係機関とも緊密に連携・協力をして、道民の皆様の命、暮らしを守るため、防災・減災対策に、全庁を挙げて取り組んでいただくようお願いいたします。

次に、「アイヌ文化の魅力発信」についてであります。

先月 17 日に、大阪・関西万博でアイヌ舞踊「ウレシパモシリ」が披露されました。

私も現地において観覧いたしましたけれども、200 名を超える方々による圧巻のプログラムに大いに感銘を受けたところであります。国内外の皆様にアイヌ文化の素晴らしさをお伝えできたことに、大きな意義があったと感じております。

また来月には、民族共生象徴空間ウポポイが開業 5 周年を迎えます。これまで 140 万人を超える方々に来場いただきましたウポポイに、より多くの方々にお越しいただけるよう、関係部局・振興局においては、様々な機会を捉えて、アイヌ文化の魅力発信、関連施設への誘客促進に取り組みながら、アイヌの方々への一層の理解促進に向け取り組むようお願いいたします。

次に、先ほど振興局からもお話しがありました「日高山脈襟裳十勝国立公園に係る取組」であります。

昨年 6 月 25 日、道内では 37 年ぶりの新たな国立公園として指定されました。間もなく 1 周年ということであります。

これから北海道も夏の観光シーズンを迎えるという状況の中で、国内外から訪れる多くの方々に、雄大な自然を安全かつ持続的に楽しんでいただけるよう、プロモーションなどと併せて、受入環境の整備、保護についてもしっかり取組をお願いいたします。

また、先ほど日高、十勝の両振興局から、今年度の取組についても説明がありました。指定から 1 年が経ち、改めて国立公園としての価値を認識し、地域の魅力向上と活性化につなげていくために、関係部局、両振興局と連携し、関係機関、市町村とともに取組を進め、地域の発展につなげていきたいと思いますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後に、「どうみんおでかけプレゼントキャンペーン」であります。

観光については、全体としてインバウンドも大変好調でありますけれども、これまで道内の観光を支えてきた道民の皆様においても、引き続き、道内の旅行を楽しんでいただけるように、今年 3 月から観光関連事業者と連携し、道民の皆様へ向けた割引サービス等と併せたキャンペーンを実施しています。

6 月に入って、対象施設が大幅に増加したということで先ほどお話もありました。より参加しやすくなったということだと思います。多くの道民の皆様にご参加いただけるように、各部局、振興局における改めての周知の協力を私からもお願い申し上げたいと思います。私からは以上です。

【加納副知事】

それでは、皆様には知事の指示事項を踏まえまして対応いただきますようお願いいたします。以上で庁議を終了いたします。お疲れ様でした。